

島津製作所 (コード 7701)

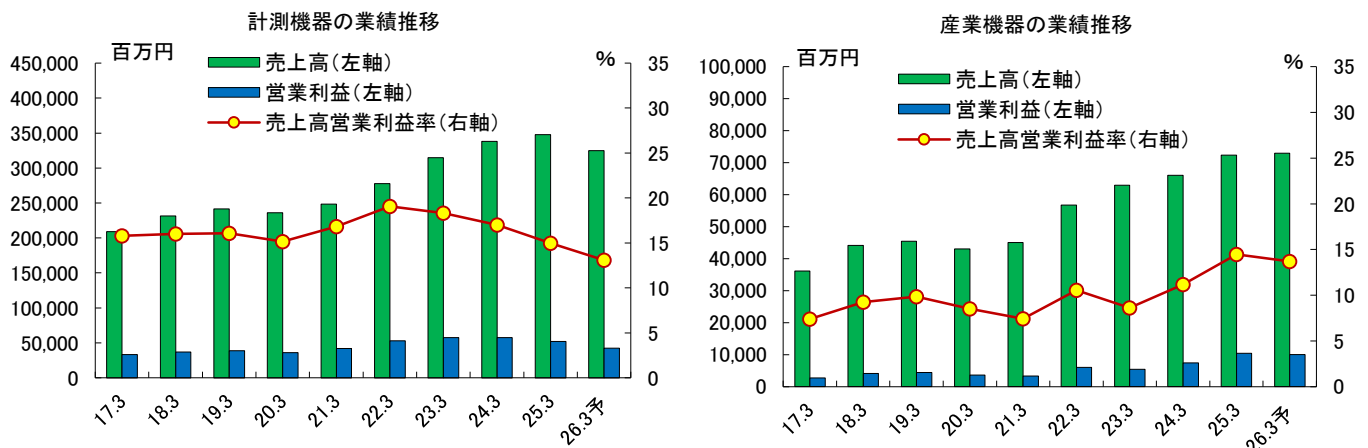
◆通期業績推移(連結) (26.3 予は会社側発表値)

決算期	売上高	営業利益	1株純利益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
23.3	482,240	68,219	176.6	54.0	48,303	▲34,509	▲19,418	153,734
24.3	511,895	72,753	193.5	60.0	30,127	▲15,998	▲21,098	159,234
25.3	539,047	71,720	183.6	66.0	52,002	▲23,173	▲48,409	137,190
26.3予	515,000	58,000	155.8	66.0	—	—	—	—

◆各決算期の中間期業績推移(連結) (26.3 予は会社側非開示のため表記しない)

決算期	売上高	営業利益	1株純利益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
23.3	221,893	28,912	83.2	22.0	22,705	▲19,752	▲10,755	156,886
24.3	239,514	32,505	90.1	24.0	11,804	▲7,161	▲11,488	157,295
25.3	251,247	30,221	72.4	26.0	28,209	▲14,269	▲16,414	151,982

(CF=キャッシュ・フロー。現金及び現金同等物は各期末値。▲はマイナス。単位は百万円、円)



25年3月期の業績概況…25年3月期は、産業機器や航空機器などが好調に推移し、売上高は前年に比べて約5%増加した。一方、研究開発や人的投資など将来につながる成長投資の継続により、営業利益は約1%減少した。

当期の業績は、売上高 5,390 億 4,700 万円 (24年3月期比 5.3%増)、営業利益 717 億 2,000 万円 (同 1.4%減)、経常利益 720 億 1,800 万円 (同 6.3%減)、親会社株主に帰属する当期純利益 537 億 7,600 万円 (同 5.7%減) となった。

主な事業セグメント別の売上高は、計測機器 3,479 億 1,500 万円 (同 2.9%増)、医用機器 725 億 6,700 万円 (同 0.4%増)、産業機器 723 億 3,500 万円 (同 9.4%増)、航空機器 386 億 6,200 万円 (同 34.5%増)。また、営業利益は、計測機器 520 億 7,300 万円 (同 9.4%減)、医用機器 42 億 6,300 万円 (同 10.8%減)、産業機器 104 億 6,700 万円 (同 41.6%増)、航空機器 60 億 6,800 万円 (同 73.4%増) となった。

セグメントの売上高及び営業利益で最も大きい主力事業の計測機器については、液体クロマトグラフ、質量分析システムなどの「重点機種」の売上高が 1,904 億 9,000 万円 (同 2.7%増) と堅調に推移したほか、分光光度計や試験機など「その他」の売上高も 1,574 億 2,400 万円 (同 3.1%増) に伸長。安定収益の基盤となるリカーリング (保守、メンテナンス、消耗品ビジネスなど) の売上高も 1,333 億円 (同 9%増) に増加し、売上比率が 38.3% (24年3月期は 36.2%) に向上した。一方、利益面では、将来に向けた成長投資負担などにより、減益となった。

売上高、営業利益とも当期に過去最高となるなど大きく伸びているのが産業機器で、中でもタ

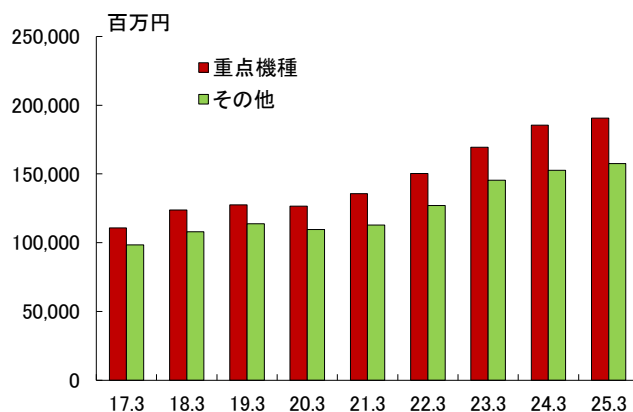
ーボ分子ポンプ（TMP）の売上高が 362 億 3,500 万円（同 13.8%増）に増加した。TMP は半導体やディスプレイの製造プロセスに欠かせない超高真空環境を作り出す真空ポンプで、特に、半導体需要の拡大によって半導体製造装置向けが好調に推移。また、TMP のリカーリング売上高は 72 億円（同 42%増）に、売上比率は 19.8%（24 年 3 月期は 15.8%）にそれぞれ拡大した。車載用セラミック製造向けなどに伸びている「その他」の売上高についても 208 億 1,400 万円（同 12.1%増）に増加した。

航空機器においては、分野別売上で、日本政府の防衛力強化方針を受けて防衛向けが 304 億 4,500 万円（同 50.6%増）に拡大した一方、民間航空機向けについては、海外で民間航空機搭載品などが伸長したものの、前年に増加した補用部品の反動により、82 億 1,600 万円（同 3.5%減）に減少した。医用機器では、主力の X 線装置の売上高が 532 億 5,400 万円（同 3.1%減）に減少した一方、リカーリング売上高は 271 億円（同 4%増）に、売上比率は 37.3%（24 年 3 月期は 36.1%）にそれぞれ拡大した。

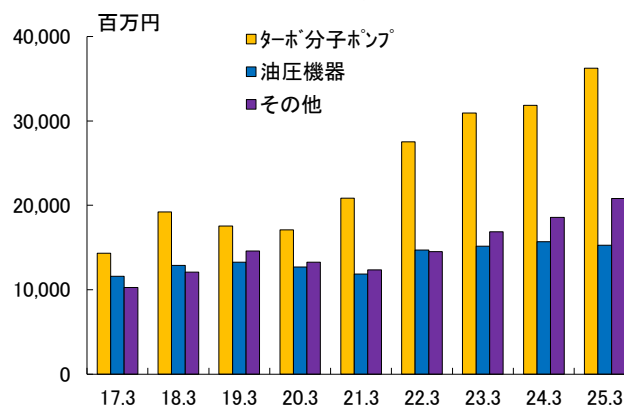
26 年 3 月期の業績見通し…26 年 3 月期の通期業績は、売上高 5,150 億円（前期比 4.5%減）、営業利益 580 億円（同 19.1%減）、経常利益 580 億円（同 19.5%減）、親会社株主に帰属する当期純利益 450 億円（同 16.3%減）の見通しで、会社側では米国による関税政策の影響が 1 年間続くことを前提に業績予想を算出している。

主な事業セグメント別の予想において、売上高は、計測機器 3,250 億円（同 6.6%減）、医用機器 730 億円（同 0.6%増）、産業機器 730 億円（同 0.9%増）、航空機器 385 億円（同 0.4%減）。営業利益は、計測機器 425 億円（同 18.4%減）、医用機器 50 億円（同 17.3%増）、産業機器 100 億円（同 4.5%減）、航空機器 35 億円（同 42.3%減）となっている。

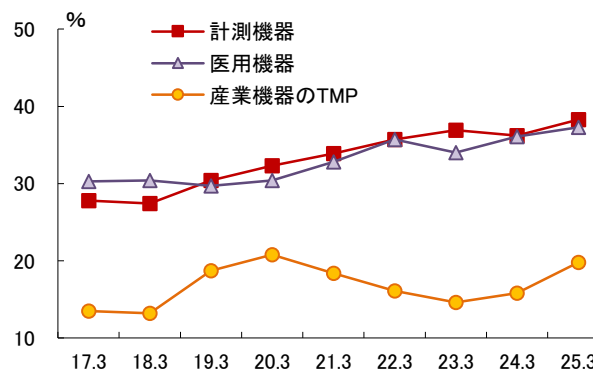
計測機器の機種別売上高



産業機器の機種別売上高



売上高に対するリカーリング比率の推移



本レポートは、会社側が発表した決算短信や決算説明資料などに基づき作成しており、証券投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、証券の売買を勧誘する目的で作成したものではありません。株式の売買取引には、約定代金に対して手数料が必要となります。また、株式は、株価の変動により損失が生じる恐れがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断でなされますようお願い致します。本レポートは各種データに基づいて作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありませんので、予めご了承下さい。なお、本レポートの著作権は西村証券に帰属しており、電子的・機械的などの方法を問わず、無断で本レポートを引用または複製、転送することを禁じます。